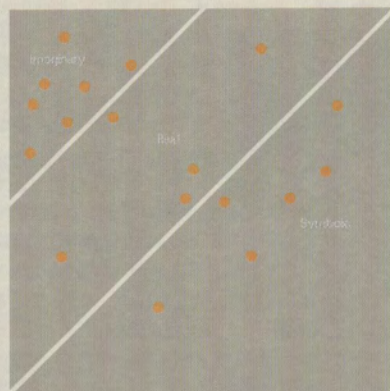


卒業研究作品選集

愛知産業大学 通信教育部
造形学部 建築学科



aSu
AICHI SANGYO UNIVERSITY

2011

建築学科の方針 —— 学術、技術、芸術を集結した建築の総合教育

本学科は、工学系、美術系の枠にとらわれず総合的な造形としての建築を学んでいただき、21世紀にふさわしい建築の設計者や建築の知識を持って社会に貢献できるキーパーソンを育成することを図っています。

常に空間を意識した建築造形の能力、社会の課題や要請に的確に答える資質を養うために、工学、美術、芸術、社会科学や一般教養などでバランスよく構成された豊かなカリキュラムを用意しています。建築造形、建築設計、CAD、構造構法、力学の演習科目を中心に建築の各専門分野から幅広く学べます。さらに大学教育の集大成として卒業研究に取り組みます。

通信教育は情報化社会、生涯学習の時代に適した教育システムです。社会人が効果的に通信教育で建築について学べるよう、通信科目やスクーリングの内容、学習方法については工夫を凝らし常に改善を加えています。

愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科は、豊かな文化性と社会性を兼ね備え、総合的な視野で建築をとらえてこれからの社会を考えられる力を身につける教育の場を提供します。



松本 篤 教授

建築学科の特色 —— 実践的な教育

美しく、人に喜ばれる建築、街並みを作りたい。



建物に住む人、その街に暮らす人、そして訪れる人が喜びを感じられる、そんな建築ができれば社会的意義は大きいと思いませんか。ファッションが機能性、美的センスを重要視するとおり、建築や街並みも環境に調和した機能や美しさ(デザイン)が求められます。単に雨、風がしのげるだけ

ではいけません。自己満足でも困ります。21世紀の日本は、美しい未来を予感させ、何かワクワクするような建築や街並みが求められています。皆さんも、その一翼を担う建築家や設計のプロフェッショナルを目指してみませんか。

社会で活躍できる人材の養成



忙しい時間を割いて学ぶ皆さんにとって、その貴重な学習時間が、今後の仕事や日常生活に結びつけられれば言うことがありません。通信教育部建築学科はまさにそこにねらいをおき、社会

人を対象とした受講しやすい教育システムを構築しています。

教育内容は短期間(3日間)のスクーリングや通信科目でできるだけ多くの建築知識・技術が得られるよう、課題作品やレポート課題に工夫をこらしています。スクーリングでは、より高いレベルの集中講義、演習を行うため、現役で活躍する建築家や各建築専門分野の教員が授業を行います。さらに造形学部の特徴を活かし、工学や芸術の枠にとられない、創造的な視点で建築を考えられる人材の育成を目指しています。

建築士の資格を視野に入れて



建築業界で働こうとする人が建築士の資格を必要とするのは言うまでもありません。ある先生の話ですが、「力がまわしをつけると一緒に、建築業界で頑張るのだったら、まずはまわし(建築士資格)をつ

ける必要がありますね。」とおっしゃっていました。建築士の資格取得は、本学科の目標の一つですが、無理なく取得できるよう配慮しています。卒業後には、二級建築士の受験資格が得られます。また実務経験2年を経て一級にもチャレンジ可能です。受験対策では、無料の学習相談会やWEB質問掲示板でサポートしています。さらに学科、校友会(卒業生の会)では資格学校(日建学院)と提携し、学科講座をバックアップしています。

スクーリング会場(東京・名古屋)やネット学習環境の整備にも力を



通信教育で学ばれる方は、在住地を問わず、各地から学びにいられます。場所を問わないことは通信教育の魅力の一つですが、本学ではスクーリング受講(面接授業)の利便性を考え、各会場の運営に力を入れています。現在、スクーリング会場を東京・名古屋におき、遠方の学生がより受講しやすい態勢をとっています。また大

阪や福岡においても提携の専門学校の協力を得て、多くのスクーリングを開催しています。東京・名古屋では建築学科で卒業に必要なスクーリング全てを開講し、週末以外に水曜日にもスクーリングを開催しています。スクーリング会場では、さらにスクーリング以外でオープン教室(自由参加型学習会)を定期的に行い、学習サポートを行っています。

その他、インターネットを活用し、WEB掲示板やブログの情報提供で積極的に学習環境の整備を図っています。

平素より愛知産業大学には格別のご厚情を賜り、謹んで御礼申し上げます。

さてこのたび、通信教育部造形学部建築学科では、以前より開講しておりました建築デザインコースの学生と合わせ、総数 90 点の卒業研究が平成 23 年度の最終審査に合格いたしました。この冊子はその中から選ばれた優秀な作品を「卒業研究作品選集」としてまとめたものです。社会人やダブルスクール（通学制の専門学校と通信制の大学）の制度で学ぶ併修生を含め様々なバックグラウンドを持つ通信教育部の学生らしい意欲的な作品が集まりました。

本学のあります愛知県では毎年卒業研究展（名古屋展）を開催し、東京での卒業研究展（東京展）もすでに 6 回を数えました。名古屋展では、2 回目となる、現役の建築家を迎えての公開講評会もあわせて開催することができました。それぞれの会場はこの「選集」掲載作品を中心に構成されております。また、特に優れた作品には「賞」を授与し、学外の展覧会やコンクールにも積極的に出展しております。

今後とも、社会の課題を見据え優れたデザインを生み出せる卒業生の輩出を目指して一層の努力を続けてまいります。引き続きご指導ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

愛知産業大学 通信教育部

造形学部 建築学科主任 松本 篤

2011年度 卒業研究受講生の所在地分布図



2011年度 卒業研究の分析とトレンド

※コンセプトの文章に対しキーワード重要度計算プログラムを適用し、その出力結果に固有名詞等の除去などのクレンジング処理を行った。

コンセプトの分析によるトレンド

	2011年度	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	建築	空間	人	空間	道
2 位	地域	人	空間	施設	施設
3 位	人	森	建築	人	まち
4 位	土地	地域	場所	都市	人々
5 位	人々	時代	場	生活	周辺
6 位	計画	光	街	地域	交流
7 位	住宅	建築	地域	日本	文化
8 位	道	計画	施設	場	森
9 位	公園	人々	商店街	環境	壁
10位	学校	地域力	人々	街	集合住宅

コメントの分析によるトレンド

	2011年度	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	建築	空間	空間	人々	都市
2 位	作品	作品	都市	街	デザイン
3 位	空間	建築	作品	建築空間	施設
4 位	街	都市	建築	人	建築空間
5 位	都市	施設	場所	空間	可能性
6 位	地域	提案	場	空間性	造形
7 位	学校	人	造形	研究	敷地
8 位	場	建築空間	災害	都市	空間
9 位	可能性	川	商店街	施設	環境
10位	木	スケール	社会性	世界観	流れ

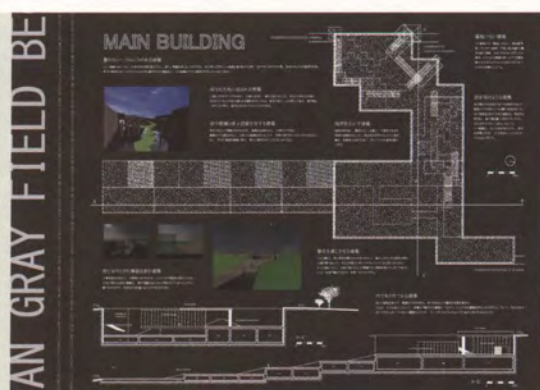
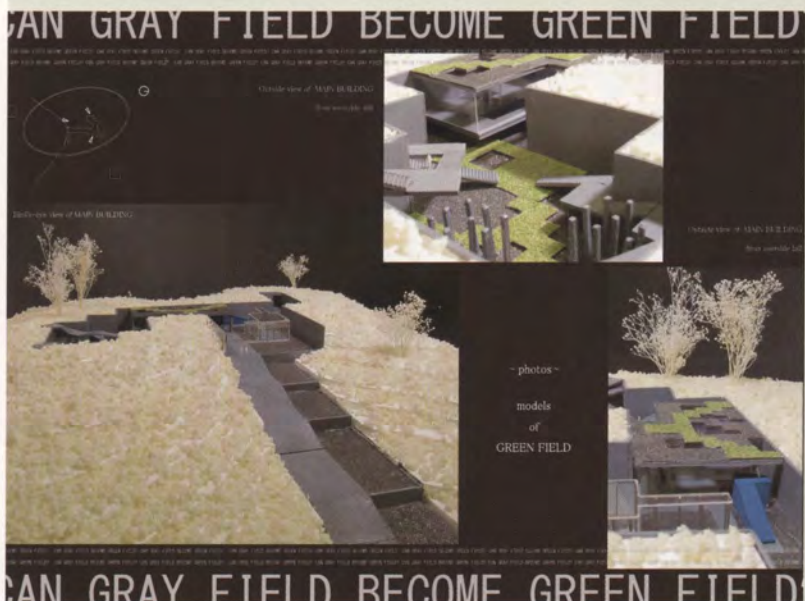
2011 年度 卒業研究 全リストと選出作品目次

選出作品	賞など	タイトル	氏 名	掲載頁
●	卒, AIJ, 近	風薫る丘を創る ～CAN GRAY FIELD BECOME GREEN FIELD?～ 八事公園の公園化	奥田 乃蘭子	4
●	卒, し	Forest in Residence = Ecology 森と住居の同化	原 和敏	5
●	卒	crack apartment	柿野 孝彰	6
●	商	Aqua City コミュニティビジネスのある集合住宅	横山 清一郎	7
●		riverC (リバーC) 地域を体感し、地域を再生する。	西口 真也	8
●		江戸から未来への架け橋	上原 諒悟	9
●		小さなマチの大きなイエ 誰もが学び教え合う地域の学校	田中 典子	10
●		Encroachment House	横山 孝幸	11
●	せ	記憶をつなぐ 水上ビルをこちよい場へ 音・間(風・光)	田中 大介	12, 24
●		集まって暮らす「カタチ」	橋谷 渉	13
●		leaf -木のぬくもりある小学校-	武士候 渉	14
●		木の学校 地域と共に子供を育む空間	藤倉 勇	15
●		さくなみ まちなみ おもてなし	中村 昌代	16
●		between a and b	河合 美緒	17
●		屏風 ～新展開コミュニティの形成～	羽田 雄哉	18
●		ひたる	佐野 宮菜	19
●	守	津波被災時の避難タワー 生きたいと思いつながら犠牲になった人々のために…	岩間 麗代	20
●	松	あいまいに繋ぐ ツナグ つなぐ ～あの屋根が見える美術館へ～	江間 良介	21
●	JIA	線と面のあいだ ～中間領域のアクティビティ～	山本 京	24
		多世代集合住居の提案 -discrete-	合津 和信	
		nature resort	渥美 淳也	
		Birds Eyes View	新崎 江平	
		Urban Sport Park	有竹 祥樹	
		長野の宿泊リゾート施設	池田 智正	
		時代をめぐる橋	伊藤 佳子	
		間(あわい)の川 一水上交通の復活で交通拠点・文化の交流点として甦る米原一	伊藤 美喜	
		ぐるんぐるん 秘密基地のある保育園と高齢者福祉センター	井上 千春	
		MEDI CARESOT 患者側から望まれる医療施設	岩壁 加津子	
		光り射す三舞台 三河湾三島での劇場の設計	岩田 啓伸	
		CONNECTION アートフォーラム柏の葉	岩田 伸	
		Inspire 人と時代をみちびく建築	上田 顕理	
		Reunion ～林業の再構築の礎～	薄 彦	
		ささしまを共に生きる。 GALLERY OF OUR TOWN	大河内 志歩	
		1 measure Cloud	太田 貴之	
		ヒトノタメ、マチノタメ。 人と地域の活性化を促す複合施設	大野 孝二	
		自由・連結の街	岡田 勝利	
		水の劇場	小楠 真司	
		復興が起こる場 heat wave field	小椋 岳	
		Legacy of civil Engineering 東京湾第二海堡を活用した公園博物館計画	金丸 孝雄	
		海の家	川井 一輝	
		やさしい時間 新しい産婦人科	館野 友美	
		かがり火～和の劇場～	菅野 祐樹	
		転成する歓楽街 歌舞伎町新駅舎計画	北原 陽介	
		home+house コモンスペースの豊かさ	小林 翔	
		人・自然・アートをつなぐ森の美術館 道の駅併設型 世田谷美術館分館 建設計画	小林 昌行	
		どろんこ保育園 土と木に触れ合う	齊藤 芳和	
		アイデアを孵化させる空間 工業団地のコミュニティ施設	佐々木 康人	
		有機的複合体 高齢者と子どもたち 人と自然をつなぐ	佐藤 浩之	
		casino幕張新都心 街に活気を!casinoによる経済活性化	新見 剛史	
		Secod Life Dock	相岡 雅史	
		むすぶ・ツナグ・人にやさしい災害に強い街へ 市民のための文化施設の提案	杉野 喜三子	
		春夏秋冬海の家 鎌倉材木座海岸活性化計画	鈴木 哲也	
		徒歩圏内への冒険	鈴木 遙	
		Community of exercise	高橋 良直	
		ジャズ発祥の地の再生 ～Revitalization of JAZZ CRADLE EMC～	田口 元	
		快適な集合住宅 集合住宅の環境を自然と触れ合える空間をデザインする。	多胡 昇	
		Disillusion Sloping Tube ～未知なる体験～	田中 直翔	
		地域でケアをする。 「グループホーム」による生きがい、絆の再生・そして、「命」の質を高め、継承する。	田中 雅之	
		憧憬 ～adoration home village～	田中 亮大	
		本といっしょ 本と暮らす集合住宅	岡井 星太	
		ReDesign	豊丸 忠	
		open mind street 開放された商店街	中島 彰太	
		呼吸する建築 公共施設の再生・平塚市の場所性	中田 祐子	
		Spinsquare	中原 康太	
		河口 川が海に流れ込むところ	中村 孝二	
		Stadium ボールパークの可能性	梨子 忠宏	
		ネイチャー ミュージアム ムサシノ 都市の中の自然史博物館	新名 将明	
		Innovation's Heartbeat	服部 佳一郎	
		老いも若きも助け合って暮らせる集合住宅 誰もが先生、誰もが生徒	濱田 美和子	
		東京は江戸の夢を見るか 江戸の風水を現代の東京に実現	林 真己	
		Forest	平子 和貴	
		MICHI (先達の知恵) 変化激しい現代社会に於いて、彷徨う若年層と定年を、迎えた達人との出会い	黄 東淑	
		エンジェル・ハイロウ 天空への道標	福原 悠斗	
		Temporary village 多様性のある仮設集落	富士大 雅之	
		熱田の森と商店街	古田 輝	
		行こまじ道の駅 ホテルの横む清流の里	星野 ゆかり	
		ボロロッカ関	星屋 倫子	
		おりお横丁	堀田 憲	
		スキーリゾートの駅 スキーリゾートホテル	松倉 光志	
		森へかえろう 森のかえろう(回廊) 憩いが憩いをよぶ場所、ここから	松田 恵一	
		海と街をつなぐランドマーク 人が集まる開放的な建築	松原 徹弥	
		Festival 憩いの共有	MARTELL TELLO RENZO IVAN	
		The L Avenue Facility of Senior Community	丸山 愛美	
		集いの広場 「学び」と「交流」の複合施設	三浦 元嗣	
		公園と一体化した学びの空間 人をつなぐ 地域をつなぐ	三島 直亮	
		景観を心に育む	室屋 仁	
		土地と記憶をつなぐ建築 ～自然科学館うらら～	山下 敦也	
		GREEN TOWER ～緑の塔～	横山 敏	
		LINK TOGETHER 流れる交流	渡瀬 宏伸	
		工場はもっと透明であるべきだ 町工場群の未来形～町中の工場がオープンになれば工場見学は放題～がんばれ町工場!	渡瀬 朱実	

卒:愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科卒業研究賞 AIJ:日本建築学会全国大会・高専卒業設計展示会 大学推薦出版 近:近代建築別冊 全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集 大学推薦掲載
 し:学生設計優秀作品集(レモン紙) 大学推薦出版 商:商業施設技術者・団体連合会会長賞 大学推薦 せ:せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦 梱包日本一決定戦(梱包日本一)
 守:愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科卒業賞 松:愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科松賞 JIA:日本建築家協会学生卒業設計コンクール(JIA東海 佳作入選)

総数 90作品

model & work panel



concept

本研究は、名古屋近郊の街、八事の抱える課題を、課題の根源である霊園の公園化によって解消するというものである。土地の持つ緑の記憶を呼び覚まし、人と交通の流れを取り戻す。これは、平和公園から相生山緑地へと名古屋近郊に連なる公園群に、またひとつ緑の公園を増やすという新しい価値を生むであろう。さらに、土地を覆っていた墓石を集約して、そこに眠る人々に美しい緑の公園を贈り、敬意を込めた新しい形の提案をしたい。

計画地においては、ガラスの両翼を持つ回遊型ペDESTリアンデッキが、敷地内の施設を緩やかに繋ぎ、歩歩分離に一役買うとともに計画にまとまりを創り出す。中央に位置するメイン建築は、巨大な建造物で土地を押さえつけるのではなく、またそそり立つような雲つく建築ともせず、あくまで母なる大地に包み込まれるような設計とした。また、建築の屋上と内部に庭園を配することで、起伏の豊かな土地を造成することなく水辺の風景を作り出し、建築内部に豊かなシークエンスを生み出した。建物内では、静寂と青空に同時に包まれるひとときを過ごすことができる。

comment

この作品の見所はまず「作品」として、鑑賞者の眼を引きつけるのに十分なグラフィカルな美しさを備えている所だろう。設計活動をする時、通常は「発想」→「展開」→「表現」のステップをスパイラルに繰り返す。それに対し、作品を鑑賞する側は「表現」を手がかりに「展開」→「発想」と読み込んでいく。卒業設計は学生にとって初めての本格的設計活動と言える場合が大半であろう。テーマが大きく構想が複雑であるほど（気合いの入っている作品）この単純な原理を失念してしまいがちである。よく考えているしチャレンジングな試みをしているのに作品としてのまとまりや美しさに欠けている作品をよく見かける。惜しいと思う。設計活動とは結末所、コミュニケーションであるといえる。この作品はその辺りの機序を十分わかまえていていると思う。

コミュニケーションであるとするなら内容が問われる。この作品が語っているのは、命の循環と空間の交錯であるといえる。あるいはそびえ立つ構築物ではなく、地に伏せ消えてゆく建築である。それは袋小路に入り込んだかに見える現代の苦悩に対する答えの模索のように見える。その結果極めて透明性の高い「場所」の提案につながっているのではないだろうか。

(担当教員：宮武 仁)

Nobuko Okuda

奥田 乃譜子

愛知県在住
建設関連勤務
40代



4月、えいっと出した入学願書。仕事をしながら卒業なんてできるのかなと不安でしたが、なんとか課程を終え、卒業制作を完成することができました。これもひとえに、宮武先生はじめ諸先生方のご指導と、励ましあえた友達やゼミの仲間、そして家族と友人の応援と理解のおかげです。ありがとうございました。

愛産大での2年間は、回り道でも寄り道でもなく、まっすぐだけども大変な道程でした。この道を越えてきたことは、今後の自分を支える自信になることでしょう。

第 35 回学生設計優秀作品展 出展 (レモン展)

model & work panel



concept

環境問題は人間が作り出した人工的なものと自然が対立することにより起こってきた。環境破壊は、一見、技術的・科学的な問題に見えるが、人々のモラル・意識・感覚によるところが大きい。現代の建築デザインは、均質化された場所性のない建築デザイン、自然の生態系を無視した建築デザイン、土地の私有化による自然を無視した街並みにより、人々の自然観を喪失させることとなった。これらの要素を解決させる、森と同化する「Liana Structure」のインフラシステムを提案する。風景の変化、生態系の変化、共有空間の変化、人々のライフスタイルの変化を起こし、現代文明を謳歌しつつ、自然保護を行うという新たな時代に導く。

comment

あらゆる意味での標準化が進んだ現代の人工的な都市に疑義を呈し、文字通り木と一体化して成立する可変的な構造システムの提案により、本来は緑豊かな丘陵地である川崎にふさわしい、森に寄り添った生活のかたちを丹念にデザインしている。ノスタルジーでもファンタジーでもなく、最新の技術を念頭に置いた近未来の都市像を提案している点が説得力につながっている。都市環境を深く掘り下げて考え直すことで、新しい世界観とも言える大きなビジョンを描き出すことに成功している。

(担当教員：久原 裕)

Kazutoshi Hara

原 和敏

神奈川県在住
エンジニア

自宅を自分の手で建てようと思い、通信教育で勉強をはじめました。最初は間取りや、施工方法を学ぶつもりが、いつの間にか、先生方の熱い講義に影響され、建築の奥深い世界に迷い込んでしまいました。

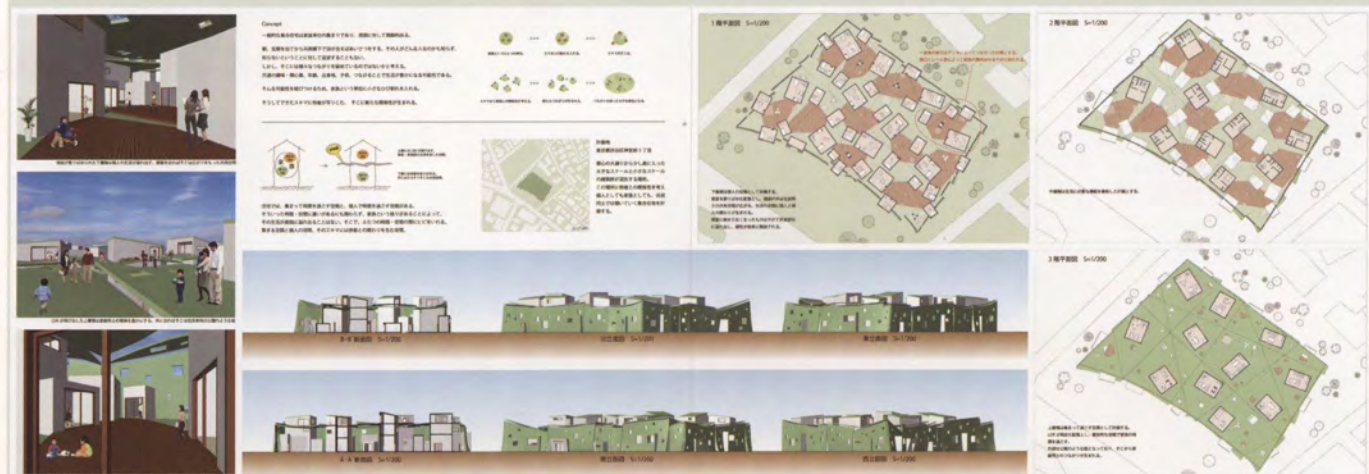
建築とは何か、よいデザインとは何か、よい空間とは何か、などを毎日考える日々でした。

ヨーロッパまでコルビジエ、ミースを見に行きました。いろいろな建築家の講演も聞きに行きました。

そして、自分なりの答えが出せました。

今後も、建築に関係する活動ができたらと考えています。

model & work panel



concept

一般的な集合住宅は家族単位の集まりであり、周囲に対して閉鎖的である。朝、玄関を出てから共用廊下で目が合えばあいさつをする、その人がどんな人なのか知らず。知らないということに対して追求することもない。しかし、そこには様々なつながりを秘めているのではないかと考える。共通の趣味・関心事、年齢、出身地、子供、つながることによって生活が豊かになる可能性である、そんな可能性を結びつけるため、家族という単位に小さなび割れを入れる。そうしてできたスキマに他者がうつりこむ、そこに新たな関係性が生まれる。

Takaaki Kakino

柿野 孝彰

愛知県在住
教員
20代

comment

現在、町中にある数多くの集合住宅は、本来の集合住宅としての機能を果たしていない。家族単位を解体し、個人を中心に緩やかに再構築することで、集まって住む事の利点、個を中心としたライフスタイル、豊かな共有スペースとは何かを問う作品である。開放的な上部空間が、リビングによって緩やかにコミュニティを形成している点が特に注目できる。また高齢者や各世代が「集住」できる可能性をも感じさせる。

(担当教員：木下 太)

model & work panel



concept

本提案は、コミュニティビジネスのある集合住宅です。コミュニティの活性化の事例である戸越銀座商店街や客家土楼の分析から、設計基準として人の関係距離 $d = 6\text{m}$ 、 D (通路幅員) / H (建物高さ) $= 1.5$ を採用しました。さらに、活性化の起爆剤としてコミュニティの中に「ビジネス」の緊張感を持たせることを考え、棟内にコミュニティビジネス商店街を配置しました。また、行政との連携により図書館や保健センターといった交流拠点としての役割も担う複合型集合住宅とします。その中心には、豊富な水資源を活用した水中公園やコンサートホールといったアミューズメント機能を組み込み、住民だけでなく来訪者から見ても魅力的な複合型集合住宅「Aqua City」を提案します。

comment

集合住宅の計画に、コミュニティ・ビジネスの要素を付加させた職住一体の街をつくる計画案である。中国の客家のコミュニティ形成にヒントを得ており、内包的な配置構成である。大規模な建築とは対照的に、古き良き日本の街並みが内部に展開している点が興味深い。 D/H 比の引用によって、コミュニケーションが生まれる距離感を意識しながら、各階を横断しながら、アクティビティが複雑に展開することを試みている点は高く評価できる。

(担当教員：伊藤 潤一)

Seiichiro Yokoyama

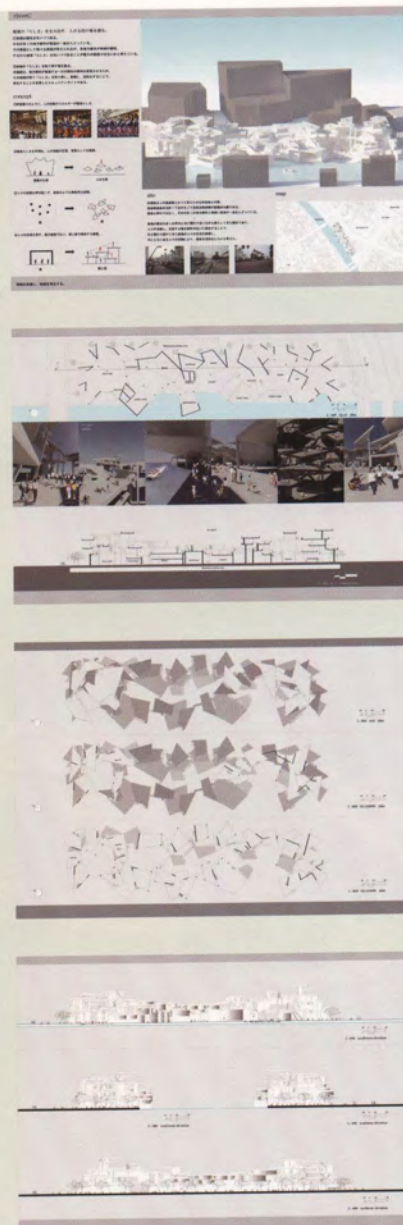
横山 清一郎

千葉県市原市在住
大規模修繕・ビル管理会社
役員
51歳



大学卒業後、液晶材料の開発などの仕事に携わってきましたが、限界を感じて独立し、経営コンサルティングの事業をスタートしました。何の因果か外壁塗装会社とばかり縁があり、その経験を生かし、リフォーム、店舗などの設計施工に関する会社を立ち上げました。しかし、建設業許可届ひとつを取っていても、一級施工管理技士や一級建築士の資格が不可欠でした。一級建築施工管理技士は独学で取得しましたが、施工については奥が深く、構造力学やデザインについて基礎からやり直さないといけないと感じる毎日でした。そんなある日、愛知産業大学の通信教育と出会ったのです。今後は、一級建築士を取得し、時代の流れをつかみ、ストックを生かした建築提案をできるようにチャレンジしてゆき、少しでも皆さんのお役に立てればと思います。

model & work panel



concept

この施設は、徳島の地域活性化を目的としたコミュニティ施設である。「地域らしさを生み出すのは活動である。」との考えから、地域を象徴するデザインが単なる飾りではなく、人々の活動に働きかけられるものになるよう計画した。人々の活動に訴えかけるには、様々な体験を通して直接身体に訴えかける空間が有効ではないかと考え、無秩序な空間の中を無秩序に歩き回ることができるよう設計した。人々がこの施設の中を歩き回り、滞留する中で、様々な人と交流し、様々な活動に触れる体験ができるよう意図している。人が主役の、背景としての建築である。この riverC で徳島のリバース（再生）を目指したい。

comment

地方都市の衰退はここところずっと加速している。地域毎の固有の価値が外部に対しても地域内に対しても示すことができていないことが要因かもしれない。この建築は徳島の固有の価値として阿波踊りに代表される「人々のエネルギーの発露」に着目し、人々が集い、活動し、活気づいていく様相の背景となるべく計画された。かつて河川敷は都市祝祭の場であった。この建築は新たな祝祭空間を生み、人々が輝く姿を思い描かせてくれる。

(担当教員：丹羽 哲矢)

Shinya Nishiguchi

西口 真也

徳島市と名古屋市在住
大学教員
30代

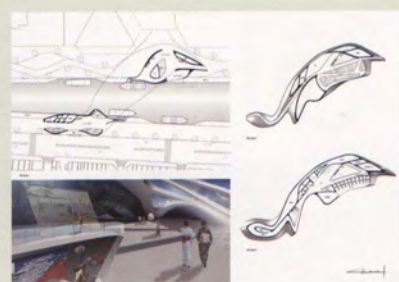
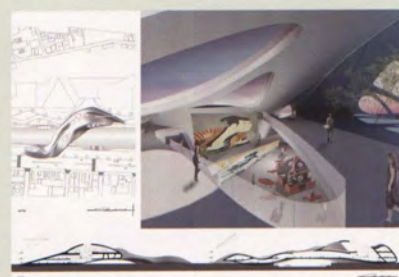
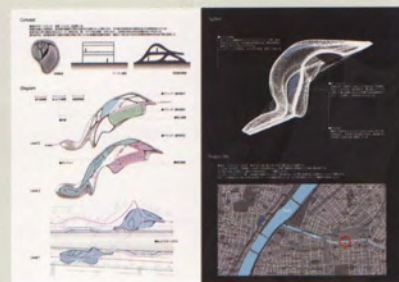
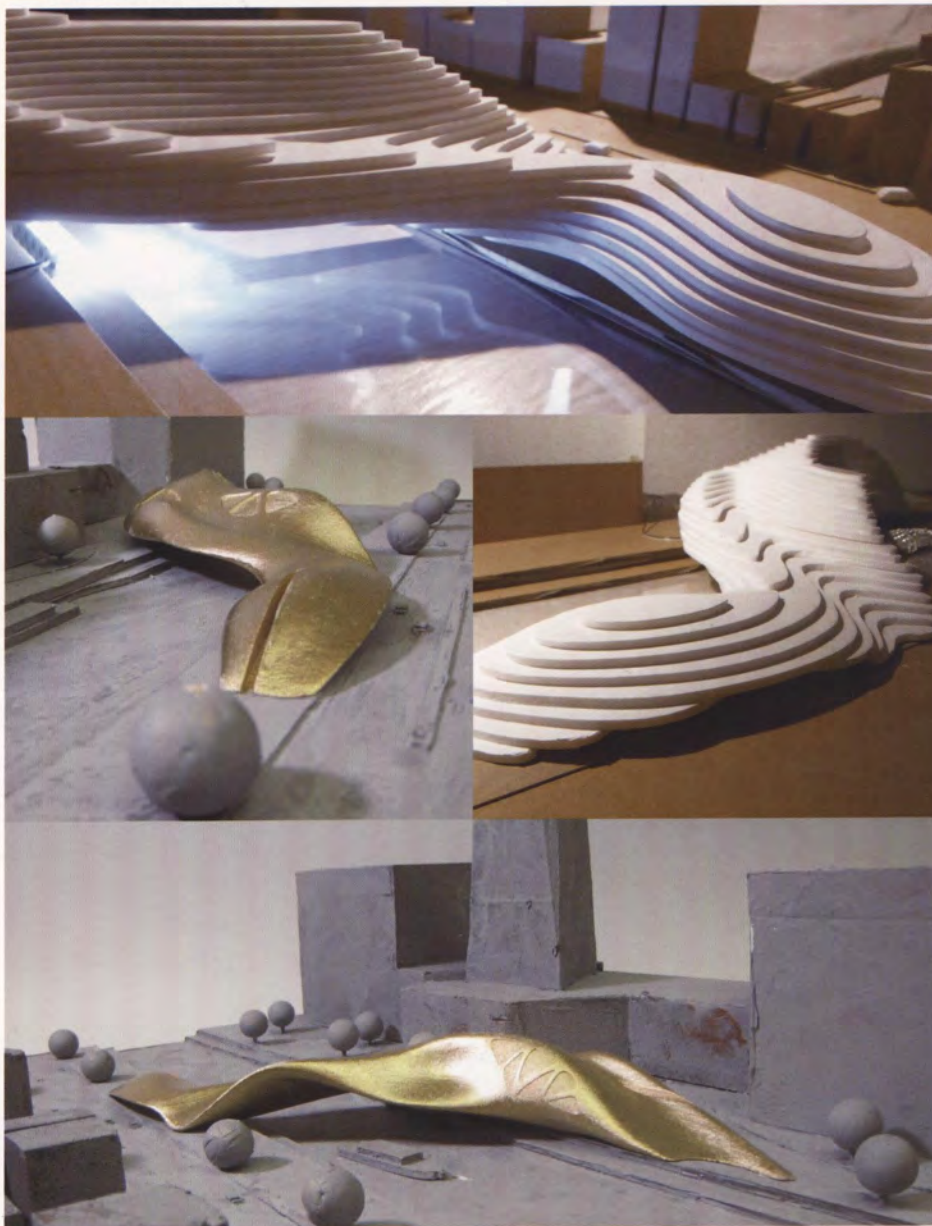


地域ブランド構築や地域活性化と建築・都市との関係について興味を持ち研究を始めたが、その中で建築に関する専門知識の必要性を感じ、研究を続けながら建築について学ぶため、通信教育で学ぶ決意をしました。

入学後は建築の魅力にのめりこみ、貪欲に建築を学ぶ機会を求め続けてきました。今では研究対象としてだけでなく、建築をもっと上手く設計できるようになりたいと思っています。今後は、資格取得はもちろんですが、建築の大学院へ進学し、インターンやコンペにも挑戦する予定です。豊かな建築・空間を提案できるプロフェッサーアーキテクトを目指していきたいと考えています。

江戸から未来への架け橋

model & work panel



concept

近代都市東京の礎は、江戸の技術、文化にある。
江戸から受け継がれたものは、現在の生活・習慣においても、我々の生活に息づく。

新観光スポット、スカイツリーの完成で、日本全国・海外から人々が集まる墨田エリア。
集まる人々に、江戸から受け継がれた土地形状、地名由来、文化、習慣、歴史を伝えたい。

スカイツリーの足元、新しく整備される「とうきょうスカイツリー」駅に隣接する形で水上バスターミナルを建設する。
ターミナル最上階はブリッジとなり、歩行者をスカイツリーへ導く。
併せて、観光客の滞在する宿泊施設を整備し、江戸文化・歴史を展示するギャラリーも設ける。

訪れた人が江戸の理解を深め、過去と未来の東京の姿を考える場となることを目指す。

comment

スカイツリーなど再開発が進む水路に、水上交通のターミナルステーションとして計画する意欲的な作品で、水上交通だけでなく、都市においてなくてはならない水路の由来を、作られた江戸時代の生活や文化と共に、現代はどう関わるべきかを提案しています。
特筆すべきは、流れるような動線と空間をバランス良く、貝殻のような構造を3D設計で検証している点です。

3DCadで設計したデータを内観ベースだけでなく、3Dプリンターで3次元模型とし出力するなど、現代技術と造形とをマッチさせた前衛的かつ世界で認められる評価の高いデザインと感ずます。
(担当教員：石崎 友久)

Ryogo Uehara

上原 諒悟

東京都在住
デベロッパー勤務
28歳

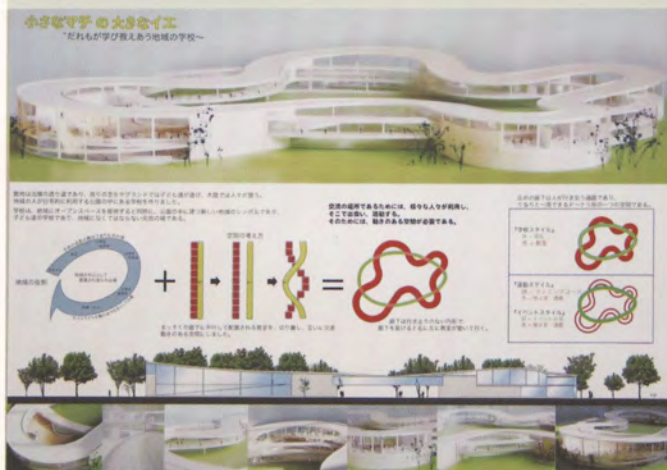


高校時代、キャンパスの一角にあった建築がとてもしっくりと、[「建築や空間を作る仕事をしたい」]と考えるようになりました。デベロッパーに就職し、目指す方向に近づいたものの、建築に関する知識・能力が不足していると感じ、ASUに入りました。

在学中、特に卒業研究を通じて、建築を作る為の様々なスキルと、それを一生かけて磨いていくものだ、ということを知りました。いつか自分の考えた建築・空間が実現し、世の中の人々を幸せにしている場所に立ち会える日を夢見てこれからも自己研鑽に励みたいと思います。(直近の目標は一級建築士の取得です。)

建築の魅力と奥深さを教えてくださった ASU の先生方(特に卒研の指導を頂いた石崎先生、家田先生)、いつも忌憚のない意見をくれたゼミのメンバー、妻の出産直後の忙しい状況の中、卒研に没頭できる環境を整えてくれた家族に心から感謝しています。

model & work panel



concept

地は近隣の通り道であり、周りの芝生やグラウンドでは子供達が遊び、木陰では人々が集う。地域の人が日常的に利用する公園の中に学校を作りました。

その学校は、地域にオープンスペースを提供すると同時に、公園の中に建つシンボルであり、子供達の学校であり、地域になくてはならない交流の場である。

交流の場であるためには、様々な人々が利用し、そこで出会い、活動する。そのためには動きのある空間が必要です。

行き止りのない廊下と右に左に現れ交差していく教室で表現しました。

comment

子どもたちは標準設計された学校建築で標準化された教育を受け、学校は地域社会の中で孤立しつつある。

そんな背景の中で期待される学校とはどうあるべきだろうか。

本作品は2つのループを絶妙に変化させながら配置させ地域と学校を結びつけ、子どもだけでなく大人まで教育が受けられるように計算されたプログラムされた作品となっている。

地域は「小さなマチの大きなイエ」を待ち望んでいるだろう。

(担当教員：濱田 修)

Noriko Tanaka

田中 典子

愛知県在住
プロダクトデザイナー
30代



システムキッチンのデザインを10年ほど続け、次第にそのキッチンから建物へ興味を持ち、建築をもっと知りたくなりました。子供が大きくなり手を離れた時に動けるように、未修学児の子育て中の入学を選びました。想像以上に大変でしたが、家族という最強の応援団がいたので頑張れたと思います。

今後の予定は、まだ未定ですが、縁があれば建築業界で仕事がしたいですし、建築を学んでいるうちに本業のプロダクトデザインの分野もすばらしい世界である気がつく事ができたので、プロダクトデザインもやってみたいです。

Encroachment House

model & work panel



concept

現代の住宅は単一化が進み、そのことにより暮らし方が単一化され、暮らしに広がりが無くなってしまっている。

そこで、新しい形の集合住宅を提案する。各自の住宅は最低限住宅とし、共用部分を増やしそこで生まれる自由なコミュニティ、などを「豊かさ」と感じて生活に広がりをもたせ、展開していく。

また、宙に浮いている計画なので、地形に縛られることなく、現在は宅地として利用されていない山間部の土地を有効に活用することができ、そのような土地は日本各地に見られ、研究タイトルの「Encroachment House (浸食する家)」のごとく各地に転用できる計画となっている。

comment

この作品を見て、私は「風に揺れる葦」を思う。この作品で提示されている「微かな風に揺れる住まい」はなんと魅力的なことだろう。確かに今日建築には、「ゆれない事」が自明のこととして強く求められている。作者は揺曳する建築—弱い建築・あえかな建築—が成立するとすればどのような条件なのか思索したのだろう。その答えは個人と建築が1対1に対応する建築「個室群住宅」なら可能ではないかということであった。そのことによって、人と建築が緊張感の高い関係を取り結べるのだとしたら、それは優れて現代の住まいにたいする批評になりうる。すなわち安心と便利であることだけが住宅に求められる役割なのかと。

(担当教員：宮武 仁)

Takayuki Yokoyama

横山 孝幸

岐阜県加茂郡在住
学生
22歳



私は、この通信学部に入學する前に専門学校で建築の主に技術者としての知識を学びました。

そして、もう少し「造形」に対しての勉強がしたいと感じ進学しました。

来年からは建築業界に就職します。

私は、建築という道は他の業種とは少し異なり、働き出してから「学ぶ事」を怠ってはならない職業だと感じます。

常に建築の知識に対して貪欲に学んでいく！

そんな人間になろうと考えています。

model & work panel



concept

愛知県豊橋市駅前に位置する水上ビルは老朽化が進み取り壊しが検討されている。このビルは用水路の上に建つ商店とビルが一体となった建物である。私は全国的にも珍しく個性的なこの建築群の取り壊しを建築の力で防ぎたいと思い既存の建物の形態を一部残しながら新たに作り変えた。

都会にいながらも田舎のようなこちよい場を提供したいと思い、水上ビルの南北両方向の前面道路を緑の道とし、さらに北側に面した公園も緑で覆うことで自然やこちよい音を感じられるようにした。風や視線、都市との繋がりを感じてもらいたい願いから建物1階部分をピロティとした。

豊橋の風は東西に吹くため、建物の形状は東西に重ならぬように配置し、それが絶妙な間となり住民は付かず離れずの関係を築くことができる。

comment

「建築の力で何ができるのか」という問いに、建築は人と社会のためにありたいという強い思いが感じられる作品です。木質構造の新たなフレームを導入することで、衰退しつつあった水上ビルを、快適な空間へと蘇らせています。この研究にあたり、実際にそこで暮らす人々に会い、風の流れや住み心地など、細かくヒアリング調査した行動力も評価したいです。

また、せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦において、見事に梱包日本一を受賞されました。

自分の考えた作品を社会に送り出すことの意味、改めて考えさせられます。

（担当教員：宮崎 晋一）

Daisuke Tanaka

田中 大介

愛知県豊橋市在住
無職
29歳



以前はスーパーの社員として5年程働いていました。建築家に憧れて、やるなら早いほうがよいと思い一昨年の十月で会社を退社して大学に専念しました。

建築への興味は潜在的に持っていて、商店建築やインテリア雑誌等を見て高揚していました。

以前習っていた絵の先生（大手京子さん）のお仲間に関西作家の中西康之さんがみえて、お知り合いになっていく中で地元の建築家、宮里龍治さんや黒野有一郎さん、フォンデザイン、彦坂昌宏さんの作品に触れて建築家という職業に衝撃を受けました。今後は一刻も早く建築の仕事に携われるように頑張りたいと思います。

集まって暮らす「カタチ」

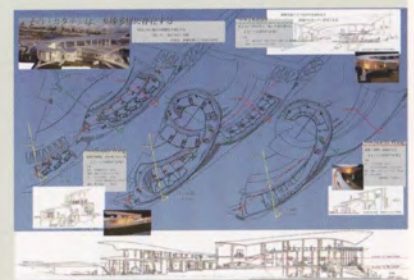
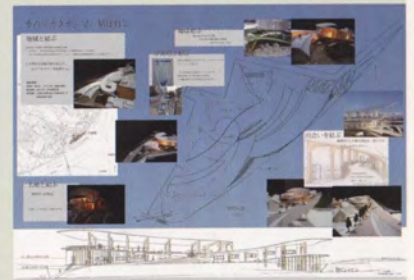
model & work panel



集まって暮らす「カタチ」

その「カタチ」は周をまとう

その「カタチ」は、ツバサをもつ



concept

近年、ソーシャルネットワークの発達により物理的に閉鎖された空間（居室）から世界とつながることが可能になった。しかし、その利便性は自分の存在を直につかさどってくれる近隣との関係をも徐々に排除させていっているように感じられる。

そこで私は、「私」を意識しつつも、一人一人の存在をつかさどってくれる心地良い共有のありかた、生活の「カタチ」（生活文化）を提示する。

comment

住まいのあり方としてシェアハウスの可能性が都市部では存在感を増している。生活時間の多様化や生活の外部化が可能となったことがその要因として考えられる。この計画では、あえて持ち家率が全国で最も高い富山県を敷地として選択し、集まって暮らすことの意味を問い直し、それを「カタチ」として表現している。しかし、その「カタチ」は形態として現れるのみならず、生活そのもののあり方である「カタチ」をも巻き込もうと意図されている。

（担当教員：丹羽 哲矢）

Wataru Okefani

桶谷 渉

富山県在住

元 建築現場管理職

かろうじて 20 代（すでに 30 かも知れません）



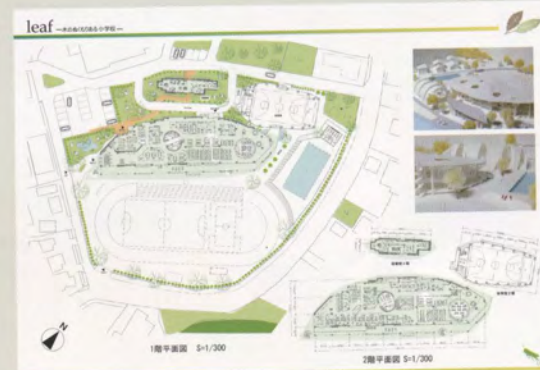
何も知らぬまま飛び込んだ建築現場をただひたすら駆け回っているうちに、30 歳が見えてきた。2010 年春、とある現場の竣工を見届けた後、編入。大学カリキュラムの履修と建築関連資格取得の為に、離職という手段を用いて臨む。

しかし、思いは途切れ、怠惰な生活へと変貌していく…。そんな中、スクーリングを通じて出会った様々な想いが自分に喝を与えてくれた。

そして 30 という数字を目にした今、少し自信をもってこの節目を越えられる気がする。

さらなる自信を得られるように、その先へ繋げる為に、ここで得た想いを継続させていきたい……。

model & work panel



concept

間伐材を利用したぬくもりある校舎の再生により学びの環境を整備し、子供の成長を支える新たな教育システムの導入により学校および地域の活性化を計画する。

また、この地域は3つある町内のどの図書館の利用圏からも外れているため、校舎の再生と共に図書館を併設し、その図書館と体育館を地域に対して開き、より地域と関係性をもつ小学校を計画する。

一日のうち長い時間を過ごす学校はもう1つの家と呼べるのではないだろうか。一続きの屋根は、家族、仲間などのつながりを表現したものである。地産材で支えられたその屋根は、自然界の循環における基本的要素である一枚の葉であり、線織面を応用することにより有機的な形態を表現している。

comment

学校建築を木造で行おうという社会的な潮流を踏まえた中で取り組んだ作品である。敷地選定では、地域に不足した機能を調査し、計画することで、近隣住民に広く開放された小学校と、そこに新たなコミュニティを生み出そうと考えた点は高く評価できる。また、「学校=家」と捉え、希薄になりがちな仲間との繋がりを、「葉」に例えた一つ屋根の下で取り戻そうとしたダイナミックな屋根の造形が意欲的である。

(担当教員：伊藤 潤一)

Wataru Bushimata

武士俣渉

神奈川県在住
システム設計
35歳

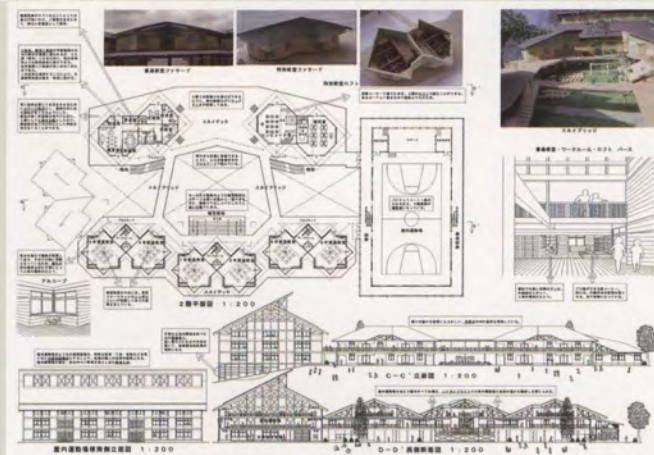
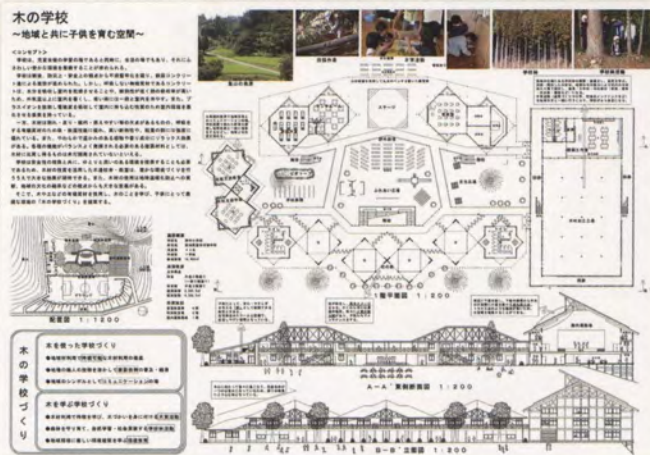


10代のころから建築に興味がありましたが、ずっと一歩を踏み込めずにいました。

そして子供ができ健康で安全な住まいについて考える機会が多くなっている時に、通信で建築を学べることを知り、一歩踏み込むことを決めました。

暮らす家が快適であり健康であり、そして安全である家とはどんな家なのか？自然とぶつかるのではなく受けながし共生できる家とはどんな家なのか？学んできた造形や空間に対する考えを生かして自分なりの答えを見つけ発信していきたいと思っています。

model & work panel



concept

学校は戦後、防災上・安全上の観点から不燃堅牢化を図り、鉄筋コンクリート造による建設が進められた。しかし、鉄筋コンクリートは室内環境を悪化させる要素を持っていることが確認された。

一方、木材は断熱性能やリラックス効果など、各種の機能がバランスよく発揮され、木材に比肩し得るものは未だ開発されていない。また、木材の使用は地球温暖化防止への貢献、などの観点からも大きな意義がある。

現在の学校施設のあり方は、安全性の確保と共に、ゆとりと潤いのある環境を確保することも必要であると変化してきた。そこで、木や土などの有機質材を使用し、木のことを学び、子供にとって最適な環境の「木の学校づくり」を提案する。

comment

日本人にとって木は身近な存在であった。しかし近年その木との関係は希薄になってきている。触れる機会が減っていることもその要因だろう。この学校は子ども達があらためて木と触れあう機会を生み出そうとして企画されている。それでいながら伝統的な形態に固執することなく、学び舎として様々な居場所が生み出されており、子どもたちに友人たちと過ごした思い出と共に、木と過ごした時間を記憶に残す建築となっている。

(担当教員：丹羽 哲矢)

Isamu Fujikura

藤倉 勇

愛知県在住
木造建築関係
47歳



今まで携わってきた建築を、より専門的に学びたいと思い、ASUに入學しました。想像以上に大変でしたが、図書館に通い、数多くの文献で知識を得たり、市内の公共施設を建築デザインという観点から見直したりと、大学入がなければできなかったことも多く、有意義な時間でした。

とりわけ卒業研究は、かなりの時間を費やし、悪戦苦闘しましたが、自分の木造建築への思いを形にすることができ、達成感を味わうことができました。作品を作り終え飲んだビールの爽快感は格別でした。

今後は日本のみならず、海外の建築を実際に見てみたいと思っています。

model & work panel



concept

寂れた温泉観光地及び地区の復活のため、「作並街道」を復活させ、「景観」を整え、活気あるまちへと変貌させる。全国6ヶ所の、まちなみ・景観づくりを行い成功した温泉地区を訪れ、役所観光課、温泉組合、商店組合、地域住民への聞き取り調査及び資料収集を行い、作並温泉の活性化へ向けた、中長期的なまちづくり計画を行った。現在、客入り込み数としては成功している温泉地区は、そのまちづくりも成熟し始め、対観光客目線だけでは処理できない地域の問題も出てきている。地域住民への配慮をしつつ、温泉観光地としての復活を行い、作並温泉地区のまちづくり計画・土地利用計画を行った。

comment

東北の大都市仙台市の近郊にあって、一時は近代的な整備を進めた事で盛況な時期もあった作並温泉が対象地である。近年は顧客の観光スタイル激変し、近場というメリットだけでは顧客数の減少が食い止められない状況となっている。中村案では寂れた温泉街の単なる再生整備に留めず、街の再生と「儲かる街再生」という、地域の同業種の方々のビヘイビアの改革とマネージメントを立案しようとした。作並は古くからあった温泉旅館を次々と近代的なホテルへと脱皮させた。結果、全国どこにでもある温泉付きホテル街へなり特色を見いだせないでいた。そこで、街道沿いの歴史的遺産を活用しファサードの統一整備、街構造を見直し、他企業を誘致し新たな観光スポットづくり起爆剤としていくなど、バラバラだった街の心をひとつにできる数々のアイデアを盛り込んだのである。蜘蛛の巣を張ってお客を待ち構えている姿勢から、自ら行きたくなる、受けとなるサービスを積極的に整備する手法である。失敗した近代化を古くからの歴史を感じる街道沿いの街並に再生し、お客が欲するきめ細かなサービス「もてなし」をポケットパークや路地再生等、空間面でも多くの提案がなされてある。経済成長期のこれ見よがしのハード整備から、縮小成長の今、ローコストでも長く愛され続ける的並み再生の在り方がひとつがデザインできたのではないだろうか。

(担当教員：白濱 力)

Akiyo Nakamura

中村 昌代

宮城県仙台市在住
建設業
30代

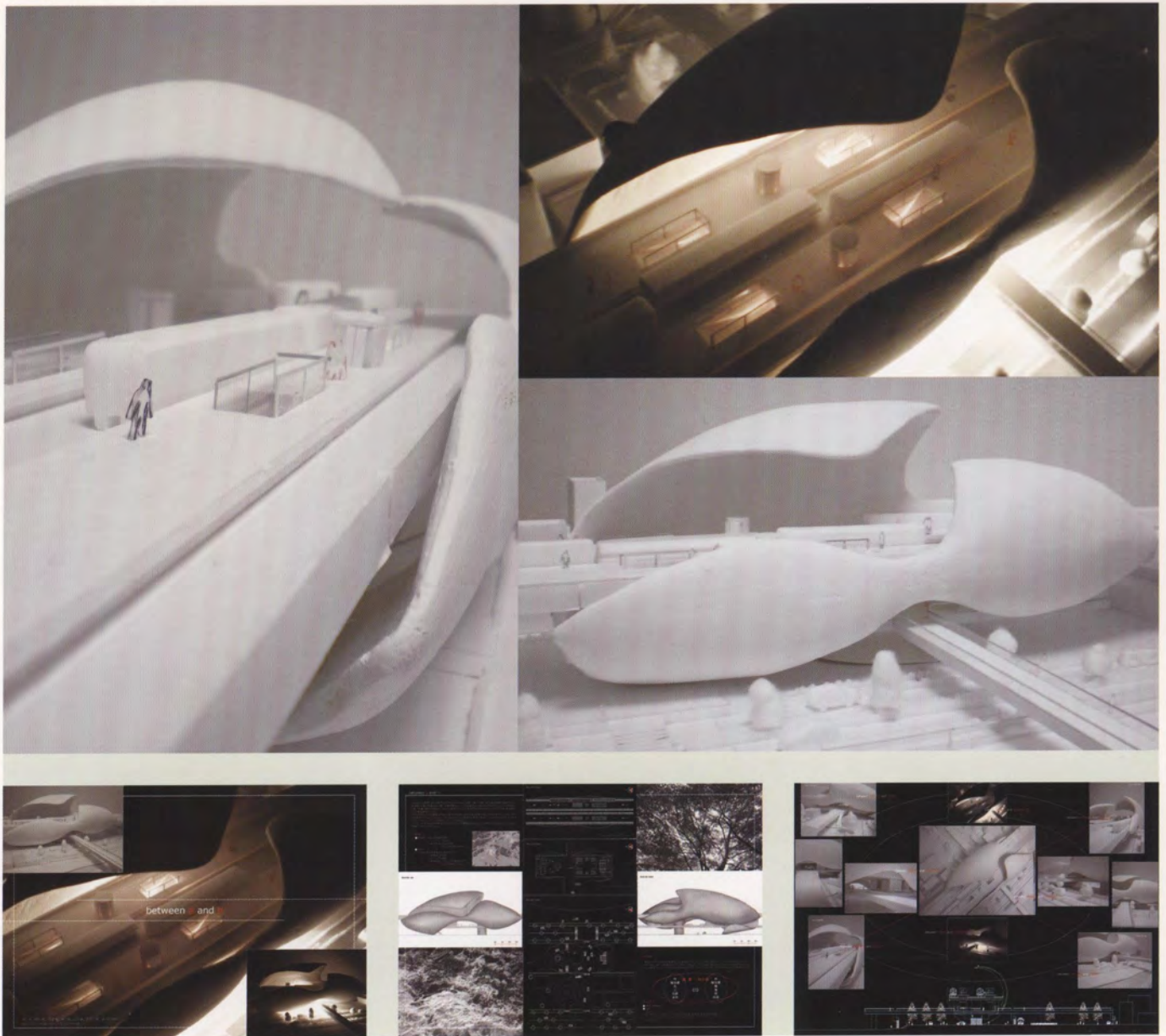


二級建築士取得後、オープンデスクをして下さっていた設計事務所の先生から「本を沢山読んでちゃんと建築を勉強しなさい」と、助言頂いたのを機に入学しました。

学校では様々な先生から、自分に足りない点・改善点・発想を教えて頂き、ゼミではそれらを更に一歩踏み込んだ指導をして頂きました。

卒研で調査した「まちなみづくり」と「上質」を、独り善がりになることなく、今後の業務に生かしていきたいと思っています。

model & work panel



concept

建築は相反するふたつのモノの間に存在し、それらを区切るものではなく、ゆるやかにつなげるものであると捉え、仲介役としての建築のあり方について研究を進めました。

今回建築地として取り上げた場所は内と外、光と闇、開放感と閉塞感という建築を取り巻くふたつの相反する要素に加え、自然と街、山と海、本州と四国の間に存在しています。その土地で「駅」というまさにふたつをつなげる役割を担う施設を取り上げることで、その役割を建築のカタチをとおして実現させることを目的としました。

comment

この卒研プロジェクトで目指したものは、いわゆる「駅」をやりたいわけではなく、建築の可能性と建築としてのカタチの追求であったのであり、またそれがよくわかる表現となっている。

この曲線にあふれた造形は見る人を引きつける。模型や図面から想像させられるものは単なるカタチ遊びや絵空事ではなく、考え抜いたからこそ出来上がった確かさがある。何より本人も作っていて楽しかったのではないかなと思う。

(担当教員：松田 力)

M i o K a w a i

河合 美緒

東京都在住
造園 CAD オペレーター
30代



大学時代に一般教養の1科目として建築に触れ、そこでコルビュジェの作品に出会ったことが建築に興味を抱くきっかけとなりました。

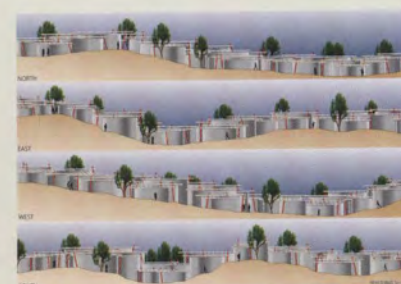
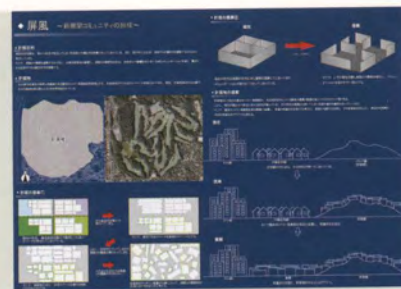
しかしながら、大学の専攻が異なり、全くの異業種に就職したために建築に関わる仕事に就くという夢は、「夢」として半ば諦めていました。

しかし、働きながら建築を学べ、しかも建築士試験を受ける資格が2年で手に入るこの学校のことを知りすぐに入学を決め、今に至ります。

今後はまず2級建築士の資格を今年確実に取得し、建築業界に一步踏み出したいと思っています。

建築には建築学だけでなく、幅広い視野と知識が必要であるということをご2年間でも思い知らされました。これからも「好奇心」を忘れず、「夢」に向かって頑張ろうと思います。

model & work panel



concept

現在の住宅は箱物で囲われており、周辺住宅との関係が希薄になってしまっている。その為住宅個々が孤立してしまい、人々とのコミュニケーションが取りにくくなってしまっている。そこで住宅をパーツ毎に分解し、部屋を固めて配置するのではなく、ランダムに配置する。これにより、コミュニケーションが取りやすくなり、周辺住宅との関係が深くなると考えた。計画地に今回の計画を立て、その計画を基盤とし徐々に周辺住宅に展開していこうと考える。

comment

この作品の主題は、住宅を因数分解し再構成し直すような様相が立ち現れるかという脱構築的手法で空間のありようを考えるということにある。様々な部材の中から選び出したし形。それは「屏風」という日本では極めて普遍的なパーツの暗喩であり、そのことがこの作品の成功を裏打ちしている。

誰でも囲う物と想起するし形（日本人には屏風）をインテリアのスケールではなく都市のスケールで展開したらどうなるか。そこに立ち現れてくるのは実体としての「まち」ではなく、記号論的空間としての「まち」であり、それは知的刺激に満ちていると受け取れる。

（担当教員：宮武 仁）

Y u y a H a d a

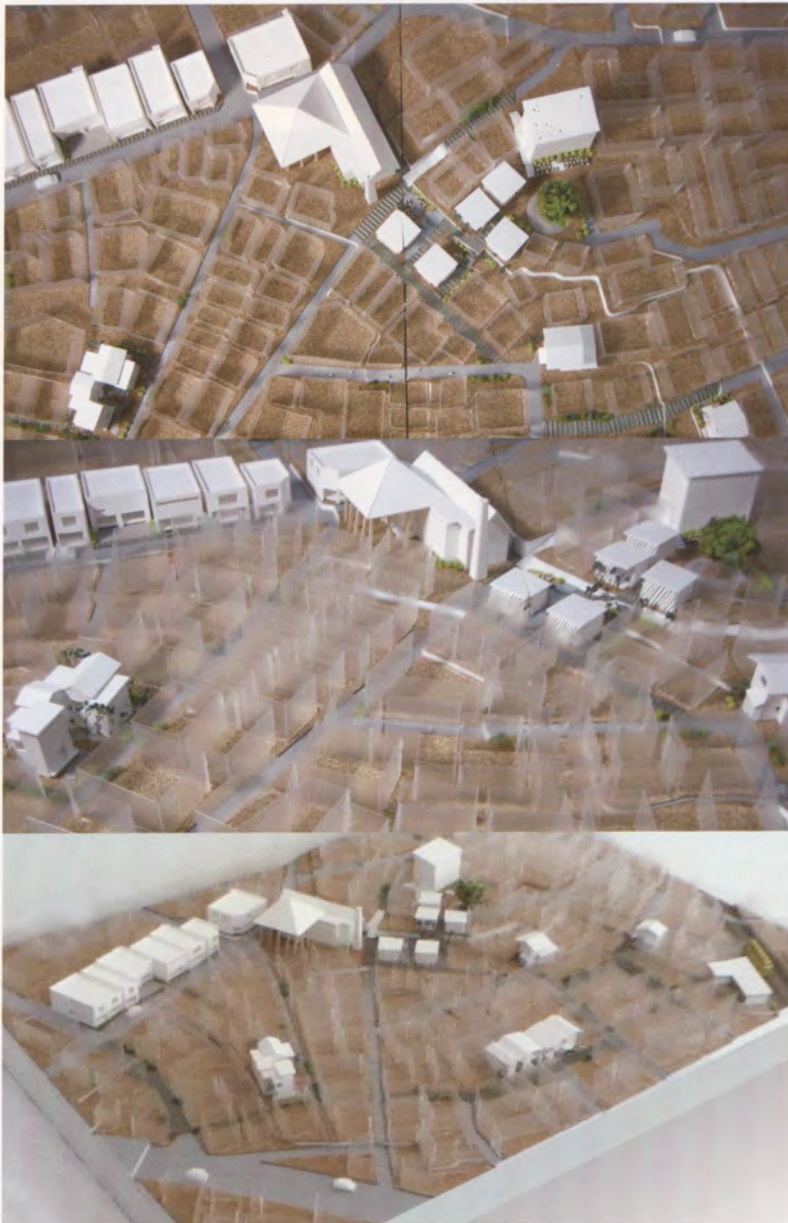
羽田 雄哉

愛知県在住
学生、4月からは現場監督
22歳



高校時代から建築科で学んでおり、その時から建築について深く知りたと思っていました。専門学校に進みさらに知識を学ぶ機会が増え、建築についてさらに興味が湧きました。そんな時に通信教育が専門学校で通える聞き、様々な事が学べると思い通信教育をしようと考えました。実際に専門的な事だけではなく様々な建築の歴史や建築物について知ることができました。今後は個人で海外などに足を運び、様々な建築物を見て周りたと思っています。日本国内の建築物も見てみたいので趣味のバイクでツーリングに行きながら見て周りたと思っています。

model & work panel



concept

激減している銭湯（文化）を現在に残したい気持ちから、本件研究が始まり、木造住宅密集地をして問題のある町で、銭湯とともに町をより良い場となるように計画。

たとえば銭湯に通うのは夜なので、安全性が暗い夜道を明るく照らす道があれば安心して銭湯通いができる。また車は通れないような道でも、自転車が通行できる道では、スピードを落としてもらうために、ポールを立て制限し、そのポールがちょっとした休憩につかえる椅子となるなどを提案。

comment

銭湯という町に点在したコミュニティの場に注目し、消えゆく銭湯を守ることで、そこに根付く文化をも守ろうと考えている。事前研究では、銭湯の歴史・文化・発祥などを詳細に調べ上げた。銭湯自身を劇的に変化させるのではなく、そこに繋がる道や場をつぶさに調べながら、人のアクティビティをどのように紡いでいくかを試みている点が興味深い。

建築単体として力を発揮するのではなく、それを取り巻く周囲への気遣い提案している。

（担当教員：伊藤 潤一）

M i n a s a n o

佐野 宮菜

東京都在住
派遣社員
30代

いつか大学で勉強をと思っていた私。

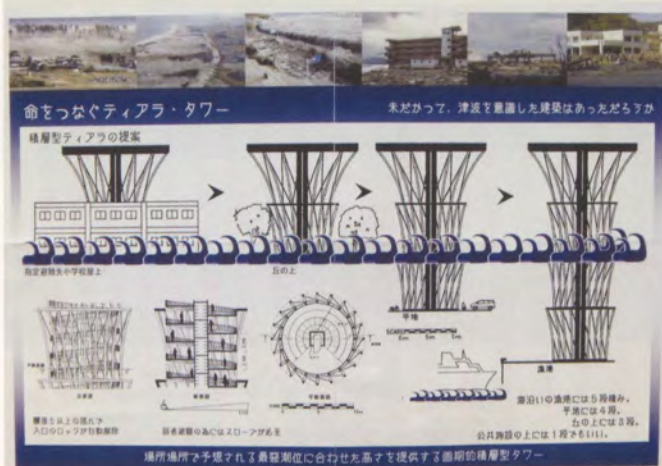
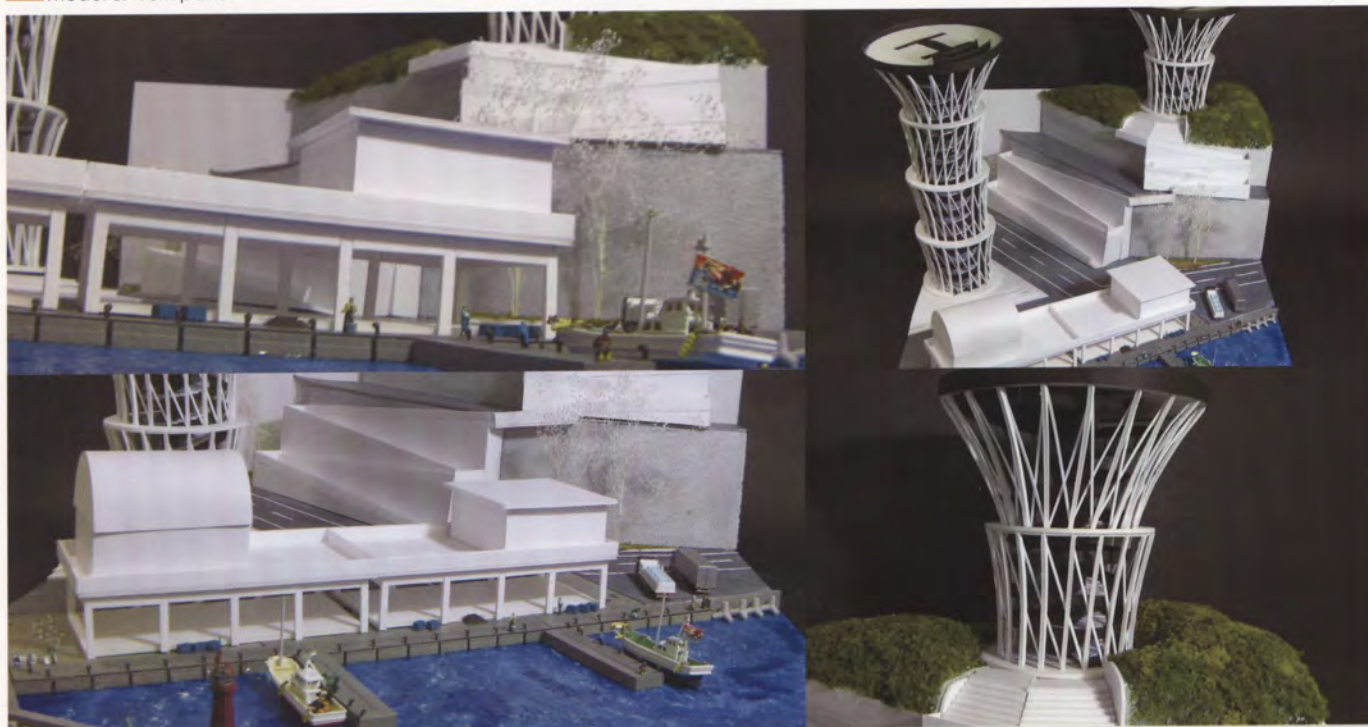
社会に出て、少し時間的に余裕が生まれた時に通信大学の存在を知り、勉強するなら今しかないと思い入学しました。

思っていた以上に時間に追われ、思うように学習することが出来ず、苦しいこともありましたが、勉強する楽しさも同時に体感し、有意義な時間を過ごさせて頂きました。

これからは、この経験を生かし、もっと様々なことを吸収していければと思っています。

「守屋賞」は、2009年度に創設されました。本学科の方針を形づくった守屋弓男教授に因むもので、社会人が自ら仕事や日常で、経験をいかした眼差しをとおして社会の問題を捉え、建築の造形によってそれに応えるという、本学で学ぶ本質が際立った卒業研究に授与するものです。

model & work panel



concept

2011年3月11日、東日本大震災により発生した津波でたくさんの人が命を落とした。耐震・免震に対応した建築物が当たり前となっている日本は津波に対しての意識が無いに等しいものだった。つまり、津波に対応した建築物と言うのは未だかつて日本にはなかった。地震で助かった命が津波で奪われてしまう…。そんな不条理を何とかできないか。建築を学んだ私に、建築を通し、建築で津波から命を守る事が出来ないか。そのためには、どんな建築物が必要なのか。

命を守り、そして繋いでいく。何を失っても命に代わる物はないのではないか。そして、今回の震災を何年経っても忘れることがないように、象徴にもなり得る津波避難タワーを提案したい。また、機能美も造形美も兼ね備えた世界初のタワーである。

comment

この研究作品は当初学内の卒研展へは選出されていませんでしたが、高い評価を受けていました。東日本大震災を被災した自らの経験に対して正面から取り組んで建築的な解決手法を大胆かつ繊細、率直に示したものです。非常に難しいテーマを扱いながらも前向きに、明快にまとめられた点が印象的です。

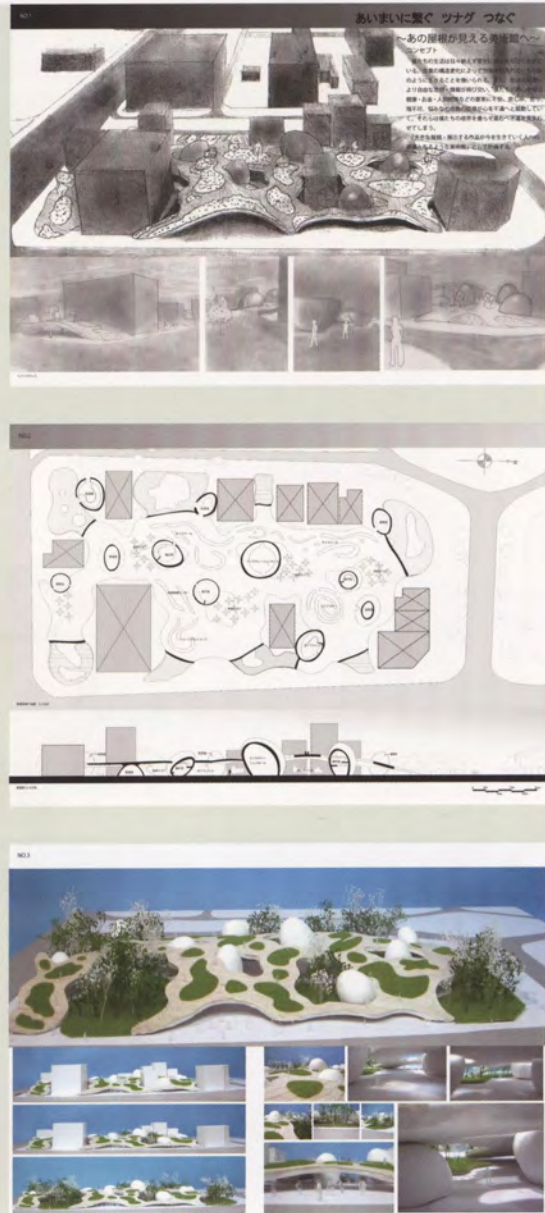
(担当教員：松田 力)

Shigeyoiwama

岩間 薫代

今年度は、初めて併修校（専門学校と大学とのダブルスクール）からの卒業生を得ました。その節目にあたり、若い世代ならではのひらめきを感じさせる感性豊かな卒業研究に授与する「松本賞」を創設しました。

model & work panel



concept

僕たちの生活は日々絶えず変化に迫られながら生きている。産業の構造変化によって労働者は売れない芸術家のように生きることを強いられる。また、技術の発達により自由な思想・情報が飛び交い、僕たちが関心を持つ健康・お金・人間関係などの要素に不安、悲しみ、怒り、理不尽、悩みなどの負の感情が心を不満へと扇動していく。それらは僕たちの視界を曇らせ進むべき道を見失わせてしまう。

「大きな屋根・展示する作品が今を生きていく人への道標となるような美術館」として計画する。

comment

街の建物を避ける様に、大きな丘（屋根）が出現するこの作品は、乾いた都市空間に潤いと、豊かな空間を生み出している。その場所は、文化・芸術を発信し、人々にコミュニティの場を提供している。忙しく街を通り過ぎる人達が、この場所にふと足を止めてみたくなる様な、魅力的な空間が存在している。完成型の建築ではなく、時と共に役目を終えた既設の建物は取り壊され、そこは緑の美術館へと成長して行く。

（担当教員：木下 太）

R y o s u k e E m a

江間 良介
22歳

卒業研究展の記録

愛知産業大学 主催 展覧会



名古屋展

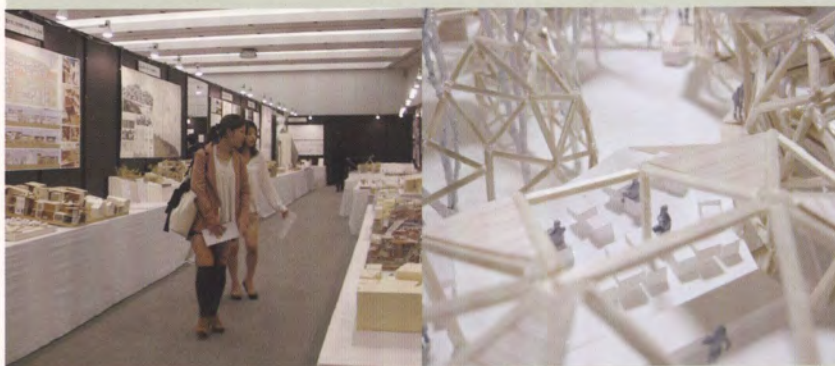
会場	名古屋都市センター 企画展示コーナー (金山ビル 11F) 〒460-0023 名古屋市中区金山一丁目1-1
会期	2012年2月21日(火)～3月4日(日)
時間	10:00～18:00(火～木)・10:00～20:00(金) 10:00～17:00(土日)
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の優秀作品16点
入場料	無 料



東京展

会場	建築会館 ギャラリー(日本建築学会) 〒108-8414 東京都港区芝五丁目26番20号
会期	2012年3月23日(金)～3月25日(日)
時間	10:00～18:00 ※3月23日(金)は19:30まで
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の優秀作品16点
入場料	無 料

学外の建築系卒業展覧会



第35回学生設計優秀作品展 — 建築・都市・環境 —

主催	学生設計優秀作品展組織委員会・レモン画翠 主催 展覧会
会場	明治大学駿河台校舎 アカデミーコモン2F 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台一丁目1番
会期	2012年5月24日(木)～5月27日(日)
時間	10:00～19:00 ※最終日は16:00まで
内容	全国から約90作品出展 愛知産業大学からは原和敏さんの作品(p.5)を出展
入場料	無 料



第53回全国大学・高専卒業設計展示会

主催	日本建築学会・各支部
会場	全国各地約40会場を巡回
会期	2012年5月中旬～3月上旬迄 (各会場共 3日間程度開催の後、巡回)
時間	各会場毎に異なります
内容	全国大学・高専より約170作品展示予定 本校からは奥田乃膳子さんの作品(p.4)を出展
入場料	無 料

公開講評会の開催



平成23年度 建築卒業研究展 卒業研究公開講評会

日 時

平成24年3月3日(土)
13:30~16:00 (開場13:00)

場 所

名古屋都市センター11階
[金山南ビル/名古屋市中区金山町1-1-1]
卒業研究展会場および大研修室 (ホール)

主 催

愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科

ゲスト講師

鈴木雄一郎 / 久米設計 名古屋支社
谷 村 留 都 / アールアンドエス設計工房
長 谷 川 寛 / 竹中工務店 名古屋支店

発表者

- | | |
|-----------|--|
| 上原 諒悟 さん | 江戸から未来への架け橋 |
| 奥田 乃譜子 さん | 風薫る丘を創る
~CAN GRAY FIELD BECOME GREEN FIELD?~ 八事公園の公園化 |
| 桶谷 渉 さん | 集まって暮らす「カタチ」 |
| 柿野 孝彰 さん | crack apartment |
| 田中 大介 さん | 記憶をつなぐ 水上ビルをここちよい場へ 音・間(風・光) |
| 田中 典子 さん | 小さなマチの大きなイエ 誰もが学び教え合う地域の学校 |
| 西口 真也 さん | riverC (リバーズ) 地域を体感し、地域を再生する。 |
| 羽田 雄哉 さん | 屏風 ~新風開コミュニティの形成~ |
| 横山 清一郎 さん | Aqua City コミュニティビジネスのある集合住宅 |
| 横山 孝幸 さん | Encroachment House |

愛知産業大学通信教育部建築学科では、社会人をはじめ様々なバックグラウンドを持つ学生が、キャンパスを離れたそれぞれの生活の場を手がかりに建築を学び、卒業研究に取り組みます。
今年も意欲的な研究が90点あつまり、その中から選ばれた16点による卒業研究展を名古屋と東京で開催します。

この機会を活かし学外の専門家や研究者を招き「公開講評会」を開催いたします。

建築は、社会との関わりの中で考えられ構築され評価されるもので、それは卒業研究といえども変わりません。

広くいろいろな方からの忌憚ないご意見、ご批判を賜ることで、学生も大学もより成長できると思います。





せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦 梱包日本一決定選 (梱包日本一)

学生を主体としたせんだいデザインリーグ日本一決定戦実行委員会によって主催されるイベント「せんだいデザインリーグ日本一決定戦」。作品そのものはもとより、近年は「梱包日本一決定戦」部門も新設されました。2012年にも多くの作品が全国より参加した中、愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科の田中大介さんの作品が「梱包日本一決定戦」にて「日本一」となりました。

全体を段ボールでシンプルにまとめた中、封筒を留めるトンボや本革製の取手という細部へのこだわりから開梱する側へ思いが伝わる仕上がりでした。ガルウィング式のダイナミックな動きを伴う梱包の開閉が、ワクワク感を増幅します。梱包の下部には図面を収納する引き出しまで装備しており、模型と図面とが独立してアクセス出来る仕組みを持っています。

懸命に取り組んできた卒業研究を梱包するにあたって、「楽しい旅をさせてあげたい」という思いをこめたと語っていました。それは梱包に対する優しさでありコンセプトでもあるでしょう。



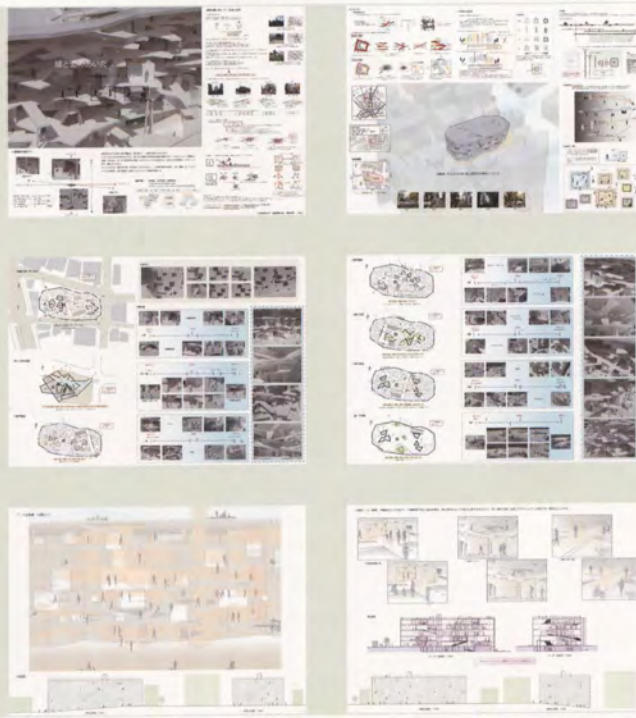
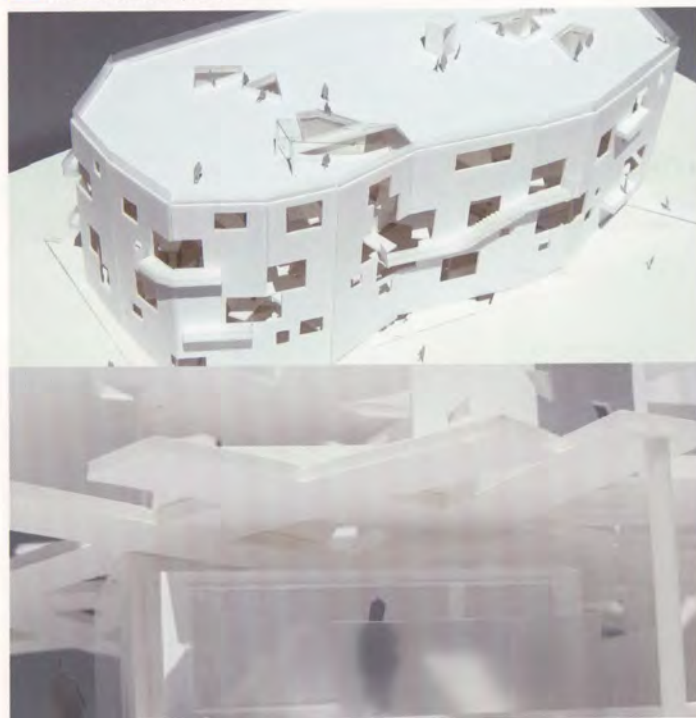
線と面のあいだ ~ 中間領域のアクティビティ ~

JIA 東海学生卒業設計コンクール 佳作 入選

日本建築家協会 (JIA: Japan Institute of Architects) の各支部主催にて毎年開催される学生卒業設計コンクール。制作者が直接主催者へ応募するスタイルの学外展。各支部の入選作品は全国コンクールへコマを進める。



model & work panel



concept

通常都市の中で道と広場の機能は、道は通行し、広場は滞在する所である。しかしながら日本の都市の中では、時に道と建物の境界線は複雑や曖昧になり、それによって「中間的な領域」が生まれ、そこが「簡易的な広場」のようにになっている事がある。例えば辻や路地は、そういった場の一種になりやすい。よっていわゆる「開かれた場」を広場とするのではなく、日本的な都市の広場 = 「道 + 路地 + 辻」として、すべての場所は、道の形態から派生したものとした建物を計画する。

comment

日本の町におけるコミュニケーションの場「道/辻/路地」に着目し、そのエッセンスを抽出した要素のみを徹底して展開することで建築を構成し、これまでに見たことのない空間の可能性を描き出すことに成功している。私たちの思考を縛る既存概念を飛び越えて新しい領域に踏み込んだこの魅力的な試みは、ただの閃きから生まれたわけではなく、幾つものモデルを地道に作りながら少しずつスタディを重ねて現在形に至ったものであり、今後も進化し続けていることが素晴らしい。

(担当教員: 久原 裕)

Miyako Yamamoto

山本 京

東京都在住
派遣社員
30代



特に強い意志を持って建築の勉強を始めたわけではなく、在学中設計 SC の評価は常に B でした (どうせなら A、むしろ C が面白そう)

名古屋で建築の基礎を学び、東京で応用、展開する方法の一端を見ました。

卒業設計では、自分の中の自分の知らない部分を垣間見たく、担当先生との対話の中でひたすら自分の内部を探っていくような作業で、思考と感覚の間を行ったり来たりしていました。建築の神様は非常に気まぐれで、出来たと思ったら何もできてなかったり、出来ないと言ったら何かできたり…の繰り返しでした。

名古屋・東京の両先生方、ゼミ担当先生とゼミ仲間、生徒の皆様、建築に関する全ての縁に感謝しています。



通信教育による卒業研究の大まかな流れ

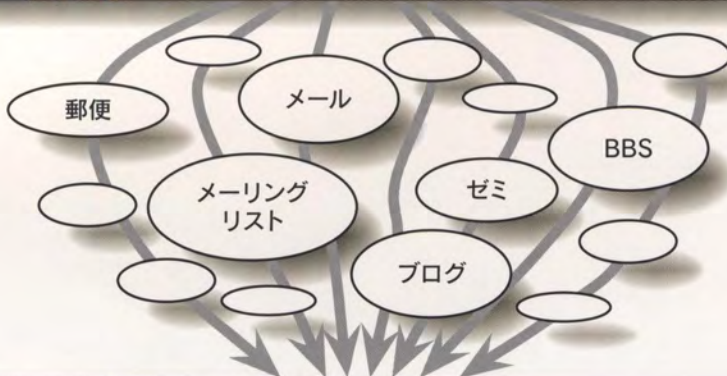
(平成23年度の場合)



卒業研究オリエンテーション

スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・全体説明および担当教員発表
- ・担当教員別に研究方針説明



様々なコミュニケーションによって探求を深める

- ・研究テーマ設定
- ・調査・資料収集・分析
- ・問題提起
- ・建築的解決提案
- ・造形研究(スタディ模型など)
- ・その他必要な研究活動



中間報告

通信

- ・レポート形式



様々なコミュニケーションによって作品を深める

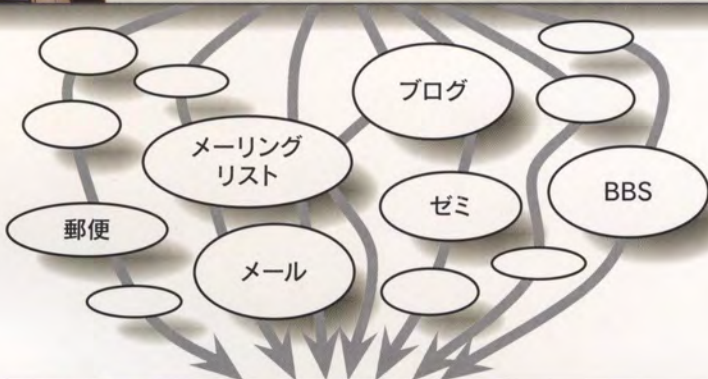
- ・建築計画
- ・図面・論文制作
- ・エスキス模型制作
- ・パネル制作



最終面接審査

スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて2日間受講
- ・完成したパネルとスタディ模型を用いたプレゼンテーション



様々なコミュニケーションによって完成度を高める

- ・パネルの改良
- ・プレゼンテーション模型



最終作品審査

通信

- ・郵送による作品提出
- ・作品パネル+プレゼンテーション模型または論文+その他必要な提出物

可否判定および選出作品決定

※詳細な事務手続等は記載していません

AICHI SANGYO UNIVERSITY
Dept. of Architecture, Faculty of Architecture and Design,
School of Distance Learning

2011 Selected Architectural Designs of ASU

愛知産業大学 通信教育部 <http://www.asu.ac.jp/tsukyo/>
文部科学省認可通信教育
愛知県岡崎市岡町原山12-5 〒444-0005 TEL.0564-48-8282 FAX.0564-48-8270
建築学科連絡先 asut-ken@asu.ac.jp